１　地域で支える新規就農者の育成・確保

【概要】

新規就農者の確保や定着に向け、地域ぐるみの支援体制づくり、作物の栽培技術・経営管理等の習得による所得向上及び新規就農者のネットワークづくり等の支援を行った。

【対象名】

農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付対象者（56名）、同交付終了者（135名）

【背景・課題】

- 三八地域では、新規就農者の約７割が非農家出身であるため身近な人から農業の基礎を学ぶことができない場合が多い。
- そのため、市町村等との情報共有を図りながら、地域の実情に即した支援を行い、早期の経営安定・定着を促進する。

【普及指導活動の内容】

- 支援体制整備に向け、管内市町村や農業委員会、農協、ＶｉＣ・ウーマン、青年農業士、４Ｈクラブ員による「新規就農者定着支援連絡会議」を開催した。
- ３名の新規就農者のほ場に、栽培実証等を目的とした「収益力アップチャレンジ農場」を設置し、現地研修会を開催した。
- 新規就農者のフォローアップのため、農業機械の保守・点検、有機栽培の取組、ＥＣサイト活用による販売方法についてのセミナーを開催した。
- 自ら生産した農産物の販路拡大やＰＲを目的とした「三八ファーマーズマーケット」の実施のため、むつ市の「しもきたマルシェ」の視察研修と、先進事例である「あおもりマルシェ」の取組について研修した。

【成果】

- 新規就農者の現状と課題、支援の必要性等について共通認識を持つことができた。
- フォローアップセミナー及び現地研修会を開催した結果、参加率が高く、参加者同士の交流も図ることができた。
- 「三八ファーマーズマーケット」の参加希望者もおり、開催への意欲が高まった。

新規就農者定着支援連絡会議（6/11）

収益力アップチャレンジ農場
現地研修会（ピーマン、8/20）

新規就農者ネットワークづくり
セミナー（1/19）

２　農山漁村女性を中心とした活力ある地域づくり

【概要】

地域の課題解決につながるコミュニティ活動プランの策定に向けて、策定者の掘り起こしや、課題整理及び活動方向等について検討会等を開催し、４組織でプランを策定した。

また、昨年度に引き続き、モデル活動に取り組んだ組織では、異業種と連携しながら、古民家を拠点とした地域交流の場づくりに向けて、世代間交流を含む親子イベントを５回開催した。

【背景・課題】

- 産直組織や女性起業者、ＶｉＣ・ウーマン等は、食文化の伝承や地域貢献活動など地域に根ざした活動に取り組んでいるが、高齢化や担い手不足等の地域の課題に対する具体的な取組は少ない。
- そのため、地域の課題を明らかにし、異業種との連携により、地域ごとの課題解決に向けた取組を支援する。

【普及指導活動の内容】

- コミュニティ活動プランの策定に向けた管　内市町村等との検討会の開催や、ＶｉＣ・ウーマンや若手女性農業者等を対象に、プラン策定への意識啓発に向けたセミナーを開催した。
- コミュニティ活動プラン策定者を対象に、地域課題の整理や課題解決への取組方法について検討会等を開催した。
- 異業種と連携したモデル活動については、年間を通したイベントの計画作成や世代間　交流への取組などを支援した。

【成果】

- 活動プランは、検討会等により取組課題が整理されたことで、４組織で策定できた。
- モデル実証組織では、古民家を拠点とした地域交流の場づくりに向けて、取り組んだ。
- 地域の高齢者を活用した世代間交流にも取り組み、親子イベントを５回開催し、高齢者の生きがいづくりと、若い世代への地域文化を伝承する場となった。

【対象名】

- 管内産直施設(15施設)
- 三八ＶｉＣ・ウーマンの会(40人)
- 青森ごのへグリーン・ツーリズム協議会(17人)
- 管内女性起業体(54)
- 女性リーダー(2人)

農山漁村女性リーダー活躍推進セミナー（1/18）

田子町ＶｉＣ・ウーマンの会との活動プラン作成に向けた検討会（12/10）

親子イベントでの世代間交流の様子（8/22）

３　「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大

【概要】
「ジュノハート」のブランド化に向けて栽培技術の普及に取り組み、凍霜害がかなり多く見られたので結実と品質の確保を重点的に指導した。結実は全般的に少なかったが、授粉の徹底により確保した園地も見られ、農協等の出荷量は前年並を確保した。

【背景・課題】
- 「ジュノハート」は令和２年に県外販売が開始され、ブランド化に向けて良品生産の拡大が必要である。
- 若木が多く、生産量が増加していくので、栽培技術の普及が必要であり、着色不良や障害果等の対策が求められている。
- 系統出荷以外は品質検査が行われず、出荷規格が一部で守られていないので、規格の周知と遵守が必要である。

【普及指導活動の内容】
- 講習会や生産情報発行により、凍霜害対策、適正管理の指導、出荷規格の周知を行った。
- 生育観測ほを５園地に設置して、生育状況や障害果の発生状況等を調査し、講習会等で活用した。
- 着色ムラの解消に向けて現地実証ほ（調査研究）を１か所設置した。
- 出荷規格の遵守や系統出荷の増加に向け、ＪＡ八戸と連携して農家を10戸リストアップし、巡回指導を行った。
- 栽培技術の底上げを図るため、篤農家８戸の優良事例集を作成した。
- 生産者代表と関係機関を参集して、来年産に向けた生産対策会議を開催した。

【成果】
- 結実状況は、凍霜害により全般的に少ない傾向であったが、授粉の徹底により例年並に確保した園地もみられた。
- 生育観測ほの調査により障害果の発生状況を把握し、当面の対策を作成した。
- 系統出荷者は前年より２名増加の15名、「ジュノハート」出荷量は、ＪＡ八戸391kg（前年400kg）、南部市場135kg（同154kg※規格外含む）であった。

【対象名】
おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者　117名

栽培講習会（４月）

適正着果研修会（５月）

生産対策会議（１月）

４　ながいも産地の維持に向けた担い手の育成

【概要】

ながいも産地の作付面積及び出荷量を維持するため、担い手となる若手生産者を対象に優良種苗の利用促進や栽培技術の向上による単収向上、個々の課題解決や省力化技術・機械の導入推進等を図りながら、規模拡大を実践できる担い手の育成に取り組んだ。

【対象名】

- 八戸農協野菜総合部会
- ながいも専門部
- ながいも若手研究会 49名

【背景・課題】

- ながいも作付面積及び栽培人数は、栽培者の高齢化により年々減少している。産地を維持するために、担い手としての若手生産者の単収向上と省力化等の推進により作付面積拡大が必要である。
- しかし、規模拡大のためには地域性や経営形態等個別で異なる課題を解決していく必要がある。また、単収向上のためには、種子の自家増殖から優良種苗への更新を図っていく必要がある。

【普及指導活動の内容】

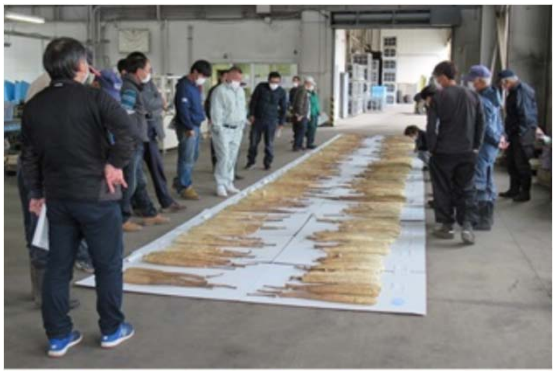
- 優良種苗増殖展示ほを活用した現地検討会や栽培講習会を４回開催した。
- 労働力不足に対応した省力機械の実演会を１回開催した。
- 単収向上と規模拡大を担う若手生産者の課題と要望事項を把握するため、意向調査を実施した。

【成果】

- 優良種苗更新による品質向上について、実証ほや研修会を実施したことにより新たに２名が優良種苗を導入し、更新を行った。
- ８月中旬以降の低温によるボリューム不足が多かったが、適期追肥や病害虫防除等を指導した結果、平年並の収量が確保された。
- 労働力不足への対応した省力機械として、パワーアシストスーツを実演した。体験した若手研究会員は、腰痛を軽減できるため購入に前向きな意向を示した者もいた。

小切片増殖ほ場を見学する若手生産者

アブラムシ忌避マルチによる
ウイルス低減効果の実証



坪掘り調査

５　重要病害虫等に対応できるにんにく生産者の育成

【概要】

重要病害虫等に対応できるにんにく生産者を育成するために、生産者が見て分かりやすい資料を作成し、個別巡回指導時に活用するとともに、優良種苗の確保のため、種苗増殖専用ほ場の設置に向けて取り組んだ。

【背景・課題】

- チューリップサビダニ、イモグサレセンチュウは被害が分かりにくく、自覚がないまま被害が拡大しているため、生産者段階での被害の有無を認知させる対策が重要である。
- 種苗増殖ほ場は、隔離され、専用での設置が重要であるが、分離しておらず、また適正な管理が行われていない実態があるので改善する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 生産者個人の種子増殖専用ほのウイルス検査を農協と合同で行い、ウイルス症状の見分け方や抜取りの重要性、アブラムシ類やチューリップサビダニがウイルスを媒介していることを「にんにくの種苗増殖のポイント」を用いて指導した。
- 個別訪問では、「にんにく乾燥チェックリスト」の項目を確認するとともに、サーモグラフィーや水分計で送風面の温度や水分率を見える化した。その上で送風ダクトの高さ調整やコンテナの上下間の入替えを指導した。
- 講習会の際に「にんにく栽培に関するアンケート」を実施した。

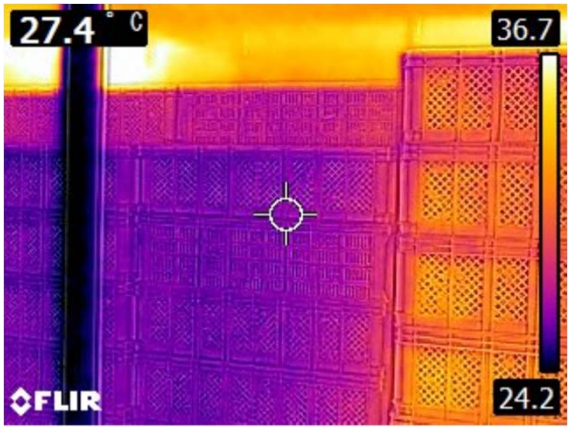
【成果】

- ウイルスに感染している株は抜き取るか、感染が怪しいものは種苗としないように印を付け、収穫後は優良種苗と区別することが理解された。
- 乾燥時の高水分の改善や高温障害回避が図られた。
- アンケートに回答した生産者全体の50%が種子増殖専用ほ場を設置していること、労働力が不足している作業は「収穫」次いで「植付け」であることが明らかとなった。

【対象名】

- 八戸農業協同組合
- にんにく専門部
- 五戸支部西部（182戸）
- 田子支部（153戸）

ウイルス検査（５月下旬）



サーモグラフィーでの見える化